

火曜会通信

2008(H20)・8・01 発行

伊丹市千僧1-1 伊丹市教育委員会事務局内

～どんぐり座 新作3題（紙芝居2・ペーパーサート1）のあらすじ～

どんぐり座では今年度に入って各班4作目の作成にかかっていましたが、このほど完成しましたので、それぞれのあらすじを簡単にここにご紹介します。なお、これまでの9作については紙面の都合で5頁下欄に各1行紹介の型で掲載しています。ご覧下さい。いずれも上演時間は15から20分ほどです。

（紙芝居）『二蝶丸（にろうまる）』

有岡城主だった荒木村重の幼名は、二蝶丸でした。この二蝶丸命名の経緯を紹介し、併せて村重の幼少の頃の怪童ぶり、又どのようにして強く逞しく成長したかを紹介します。

（紙芝居）『日本地図を作った人・・・伊能忠敬（いのうただか）』

知らないところへ出かける時は、何が必要ですか？ そう地図ですね。今ではいろんな地図がありますが、江戸時代、日本中を歩いて測量して今の日本地図のもとを作ったのが伊能忠敬です。伊丹近辺にも三回来て測量した記録が残っています。

（ペーパーサート）『よみがえった森』

昔々伊丹は摂津の国の真ん中にあり、大変栄えていました。しかし、有岡城主であった荒木村重と織田信長の戦いによって、町や村そして森や小川も荒れ果ててしまいました。森に住んでいた動物たちも被害を受け、どうしたらよいものかとお地蔵さまに相談をしました。お地蔵さまから努力すること、皆で助け合うことを教えて頂きみんなで頑張って昔の美しい森がよみがえったという話です。

春季バス研修旅行 5月 13日 石山寺・水口宿方面

中村享子

例年より 30 分早い目の集合時間で市役所前を出発。

石山寺では紫式部千年祭、特別展示が開催されていました。石山寺の名前の由来となったという暗灰色のほりの深いひだの入った奇岩は、筆者には門に立っていた青鬼が雑巾しづりをしてくしゃくしゃのままペーンと打ち捨ててんげりしたように映りました。これは全くのホラ話です。

展示会場が数箇所ありましたが、源氏物語の舞台演劇に使われた復刻された衣装より草木染めの十二単衣生地のはんなりした色合いや緻密な織り方と色合いの方がみなさん人気があったようです。

大きな鯉がゆったり泳ぐ庭は、菖蒲・かきつばたが紫色と黄色に見頃に咲いていました。広い境内を散策していると、鶯の谷渡りが喉をころがすような美しいさえずり。さんの豆知識によると春のホーホケキョはプロポーズの鳴き方で、初夏の谷渡りのさえずりは警戒声だそうです。

湖東三山は一般的ですがこの旅行企画者は「知る人ぞ知る名所」を探したようで、湖南三山の一つ善水寺に案内されました。

住職さんの解説によると善水寺の仏像の一つには、空洞の胎内に粉（もみ）が収められていて五穀豊穣の祈願が偲ばれる全国的にみても三例ほどしかない貴重なものだそうです。明治の頃その粉をためしに田植えしたところりっぱに実りました。その後 C14 炭素年代測定で分析し粉が平安時代のものだと立証されたそうです。ツタンカーメンのエンドウ、大賀蓮のような逸話ですね。

水口宿での全員集合写真は、通りかかった地元の高校生にシャッターを押してもらいました。彼

女の通う高校のグラウンドは水口城の天守閣のあった跡地で、学び舎の地下には水口宿が参勤交代の茶屋で賑わった当時の宿場町が眠っています。なんだか羨ましい高校生活です。

西国のお札所で住職さんに記帳してもらう人あり、通りすがりの郵便局でご当地の地名の入ったスタンプを押して貯金する人あり、水口資料館でパンフレットにスタンプを押す人あり・・・と十人十色のスタイルがあるようです。

帰路のバス車内では、恒例の池田会長のハーモニカ、中村ハーモニカの歴史ロマンの漂う町伊丹・・・初期高齢者の筆者はその時曲名が思い出せませんでした・・・恒例の酒井さん主催の手遊びゲーム、クイズ、とんち漢字クイズ・・・と、名神高速工事中に伴って 2 時間遅れの車内でしたが楽しく過ごせました。

名所巡りは博学系や、ほがらか系な皆さんと一緒にだと多種多様な豆知識が聞けて楽しさ倍増です。お疲れさまでした。またの機会を楽しみにしています。



ホームページのリニューアルについて

当リニューアルについては 1 部写真の差し替えを除いてはほぼ一応完成しています。

若干の手直し、見やすくするための努力に関しておいおいに手を加えて参ります。

また、公開以後の当ホームページへの歴訪者がこのほど 2100 名を超えるました。

巡礼は、心の問題であり、信仰と強く関わっている。世界中のどの宗教でも、聖地あるいは本尊に対する信仰が生まれると、宗教の儀式や集会の際に、「聖なるもの」の周りを回ることから巡礼は始まったといわれる。キリスト教の三大聖地はエルサレム、ローマ、サンチャゴ・デ・コンポステーラであり、それぞれの聖地への巡礼はかなり早くから始まっている。スペインの北西部にある都市のサンチャゴ・デ・コンポステーラは、中世ヨーロッパにおける最大の巡礼地として栄え、今もフランスのピレネー山脈近くの出発点から歩き始め、約八百キロの巡礼道をたどり最終目的地の大聖堂へたどり着く。イスラム教の三大聖地はメッカ、メジナ、エルサレムである。イスラム教の巡礼では、メッカにあるカーバ神殿が最終目的地であり、カーバ神殿の周囲を何万人もの巡礼者が左回りに人の渦を描きながら廻る。ヒンドゥー教のクンブメーラの祭では、何百万というヒンドゥー教徒が、ガンジス川、ヤムナ川、サラスワティ川が合流するアラハバードのサンガム河岸に巡礼して来て、沐浴を行い罪を浄化する。「巡礼」という言葉が日本で使われたのは、円仁の「入唐求法巡礼記」が非常に早い例である。その後、花山天皇が西国三十三箇所巡礼を開いたといわれている。これは、那智青岸渡寺を一番札所として、満願打ち止めの岐阜谷汲山華厳寺に至る三十三箇所の観音靈場巡りである。青岸渡寺は那智大社とともにあり、那智山は修驗道の根本道場であり、またあの大瀧が飛瀧権現として尊敬を集めている（自然崇拜）ことからも、この聖地は神仏習合の地であることが解る。

キリスト教の巡礼は単一の聖地を目指す直線型であり、日本のそれは複数の靈場を巡回する円環型であるといわれている。

さて、二十三番勝尾寺から二十四番中山寺を経て二十五番播州清水寺に至るまでの道筋を巡礼街道とよぶ。その巡礼街道が今も宝塚市長尾連山の山麓に当時の面影を残している。先ず、清荒神清澄寺であるが、三宝荒神が祀られ、また清澄寺のご本尊は大日如来坐像であることから、典型的な神仏習合のお寺である。売布神社を抜け、市杵島姫神社いちきしまひめじんじゃに着くが、祭神は市杵島姫命で、神社はもと中山寺の守護社であった。中山寺は聖徳太子による我が国最初の観音靈場といわれており、十一面観音菩薩像を本尊とする。中山寺も市杵島姫神社を寺域に持っていたように神仏習合のお寺であった。さらに、山本に向かって進むと、天満神社（祭神は菅原道真）があり、「トントコ祭り」で知られている。奈良時代半ばまでに、王権中枢部では、権力闘争の末に敗死した特定の者の靈が怨みをもって現れるという観念が生まれた。長屋王、藤原広嗣、早良皇太子、伊予親王、橘逸勢などの靈であり、これらの靈を慰め鎮めるために御靈会という法会が営まれるようになった。中でも、菅原道真の怨靈は王権の非をならすだけでなく、御靈会という祭祀を越えた激しい反王権活動を展開した。王権は、道真の怨靈鎮静化のために北野天神社を建て、正一位太政大臣の官位を贈り、反王権のシンボルにまで高まった天神（帝釈天の弟子である觀自在天神）を王権守護神に変節させることに成功した。巡礼街道から少し南に入ると、八幡神社（祭神は応神天皇）がある。八幡神社の成り立ちは豊前国宇佐地方であり、神社ではもと新羅國神を祀っていたが、宇佐地方に進出した大神氏が八幡神に応神靈を付与したと考えられている。宇佐八幡神宮寺の建立は神龜二年（725）と早く、八幡大神が神身離脱して菩薩号を得て八幡大菩薩となったのは奈良時代末期と考えられている。

このように、巡礼街道は神仏習合を学ぶ道でもある。

平成 20 年 6 月 2 日、水曜グループの案内により、私たち、文化財ボランティアの会員 29 名は、神戸市兵庫区にある「源平ゆかりの史跡・平清盛の夢の跡」を訪ねてきました。当日は、梅雨入りのためか、曇り空から、昼前には雨が降り始めましたが、ほとんどの史跡は、雨が降るまでに巡ることができ、ラッキーでした。

兵庫の港は、天然の良港として知られ、古来、「大輪田泊（おおわだのとまり）」と呼ばれていました。平安時代末には、平清盛が、「大輪田泊」を修築し、「経が島」を建設、宋との貿易を推進しました。鎌倉時代には、改修を経て、国内第一の港として「兵庫津」と呼ばれるようになりました。そして、室町時代には、「兵庫津」は、足利義満の進めた明との貿易で栄え、江戸時代には、瀬戸内海有数の港町として、又、朝鮮通信使の寄港地として 大いに賑わいました。この時期、高田屋嘉兵衛や北風家などが活躍し、兵庫津の隆盛に貢献しました。1868 年には、神戸港開港にともない、「兵庫津」は「兵庫港」と呼ばれるようになり、今に至っています。

「兵庫津の道」は、このような歴史を持つ 兵庫区の史跡を結ぶ道の愛称です。そこで、私達が歩いたコースを紹介しますと、JR 神戸駅～鎮守稻荷神社・平経俊五輪塔～高田屋嘉兵衛邸跡～七宮神社～築島寺(来迎寺=松王丸人柱)～古代大輪田泊の石棕(いわくら=巨石)～金光寺(兵庫の薬師さん)～能福寺(兵庫大仏)～真光寺・一遍上人五輪塔～清盛塚・琵琶塚・十三重石塔～阿弥陀寺・楠公供養石・正成首改石～薬仙寺(薦の御所)～和田神社～和田岬砲台～地下鉄和田岬駅というルートで「兵庫津」の道を巡ってきました。

「平清盛の夢の跡」という主題ですので、平清盛と関連のある史跡を中心にいくつかを紹介しましょう。先ず、鎮守稻荷神社は、「ちぢみさん」の愛称で親しまれている「いなり」ですが、境内に、平清盛の甥の平経俊(つねとし)の五輪塔や高田屋嘉兵衛が海上安全のために奉獻した一対の石燈籠があります。次に、七宮(しちのみや)神社では、平清盛が、兵庫築島(経が島)の大工事を無事に終えるにあたって、感謝のため社殿を建立し、自筆の「南無七大明神」の神号をまつり、金幣を奉納したと言われています。又、築島寺(来迎寺)(つきじまでら らいこうじ)は、平清盛が「経が島」を築くとき、幾度かの暴風雨と大波のため、工事が成功せず、海神の怒りをなだめるために、人柱を入れることになりました。このとき、清盛に仕えていた松王丸が願い出て、経文を書いた多くの石とともに海中に沈みました。この松王丸の菩提を弔うために建てられたこの寺には、松王丸の石塔や清盛の愛人、妓王・妓女の墓があります。最後は、清盛塚・琵琶塚・平清盛像ですが、今は、同じ場所にあります。清盛塚は、石造十三重塔で、1286 年に建てられた供養塔で、兵庫県の重要文化財に指定されています。この塔の下には清盛の遺骨が納められているとの説がありましたが、発掘調査で、清盛の墓でないことが明らかになりました。

「琵琶塚」は、平家物語に登場する琵琶の名手・平経正(たいらのつねまさ)が、琵琶とともに埋葬されたという伝承から、「琵琶塚」と呼ばれています。

その他、「兵庫津の道」で歩いた史跡のなかで、特に印象的だったところを挙げますと、写真にもあるように、身の丈 11m で、日本三大佛の一つと称する兵庫大仏のある能福寺、

今は、赤い大鳥居のある和田神社、後醍醐天皇が配流先の隱岐を脱出し、身を寄せた折に、薬水を献上したという薬仙寺、足利尊氏が、敗れた楠木正成の首を置いて首実験をした石だという「楠公供養石」のある阿弥陀寺、「おどり念佛」で有名な一遍上人の廟所のある真光寺、そして、現在は、三菱重工業神戸造船所の構内にある「和田岬砲台」などです。

和田神社の宮司さんは、文化財に造詣のある方で、丁寧に、神社の説明をしてくださいり、又、歴史散歩道のパンフレットを用意したり、その上、雨が降りかけたので、昼食をとる場所まで提供してくださいり、参加者は、感謝感激でした。

三菱重工の方も、雨の中を、私達に 気配りをしながら、和田岬砲台まで、案内され、しっかりと説明をしてくださいました。

このように、現地の人たちの親切なガイドとともに、水曜グループのメンバーによる前もっての詳細な下見と当日の案内のおかげで、私たち参加者は、平清盛の夢の跡である大輪田泊（兵庫津）の道を巡り、新たな知識を得、見聞を広めることができました。

とても充実した文化財めぐりの1日でした。



どんぐり座各班1作目から3作目、これまでの全9作の1行内容紹介

紙芝居……～、ペープサート……～

- 「三軒寺の砂かけ狸」………… (三軒寺でのいたずら狸の話)
- 「昆陽寺の盗まれた釣鐘」………… (由緒ある釣鐘を盗んだのは誰？)
- 「赤くなったこうのとり」………… (有岡城落城とこうのとりが居なくなつた話)
- 「大鹿の雨乞い」………… (日照りで困った大鹿村を助けたお坊さんの話)
- 「頼山陽と台柿の話」………… (江戸時代の漢学者頼山陽と伊丹の台柿の話)
- 「桜物語」………… (アメリカのワシントンの桜は伊丹からと言う話)
- 「昆陽池の行基鮒」………… (昆陽池など開墾された行基菩薩の伝説)
- 「伊丹に猿が居なくなった話」………… (農作物を荒らす猿が神様に叱られて箕面の山へ)
- 「すもんだぬき(相撲狸)」………… (悪戯狸が相撲で横綱にも負けない？)

水間寺と貝塚寺内町めぐり

木曜 G : 亀井 尚

水間寺 南海本線貝塚駅からローカルの水間鉄道で終点の水間駅から府道をテクテク歩いて約7~8分で水間寺の境内にたどり着く。大げさな表現にしたのは、7月22日は暦の上では、最も厳しい暑さ大暑に当たるそうで、広辞苑を引くと太陽の黄経が120度の時で酷暑の口火、これから8月22~3日まで夏本番とあり、少しだけ表現しないとこの暑さは伝わらないと思って書き出しにした。

当日、火曜会会員24名のご参加を戴きました。水間鉄道で貝塚駅を出発して間もなく、車窓から眺める景色は、中世から伝わる豊かさが、家並みで容易に推察される。黒瓦葺きの二層の堂々たる構えの家が次々と車窓に映し出され、楽しませてくれた。

水間の駅舎がこじんまりと寺院風の概観で、扁額風に「水間驛」と風情があり、和ませてくれた。府道から脇道を入って、水間寺への道々幾軒かの立派な門構えの家々には圧倒された。府道40号線越しに水間寺の境内入り口があり、近木川にかかる「厄除橋」を渡ると水間寺の境内になる。このくらいの規模の大寺院ともなれば、仁王門と呼ばれる山門があるのが一般的だが、水間寺には山門と言うものがない。明るく開放的な雰囲気を醸し出しており、古刹にありがちな抵抗感、重圧感がないが、三重の塔、本堂等伽藍は立派であった。

龍谷山 水間寺の本尊は聖観世音菩薩、宗派は天台宗、新西国第四番札所。

縁起によれば、聖武天皇42歳の時病床にあり、ある夜、都の西南に当たって靈験あらたかな観音出現の夢のお告げを授けられた。天皇は行基に現地に赴くよう命じた。

僧行基は勅命に従い、この地を訪れたところ、16人の童子に迎えられ、現在本堂になっている場所の裏の滝に向かうと。その滝の中に1寸8分(約6寸)の金銅仏・観音像を発見、都に持ち帰り天皇に観音様を授けられたと報告、天皇はそれをご覧になって、手を合わせられると病気がすっかり平癒、観音様を祀るため、天平6年(734年)に行基に命じて滝の側に御堂を建てさせたこれが勅願寺、水間寺の創始との伝承である。

その後、このお寺は、七堂伽藍、僧房130有ヶ房を有する大寺院になり、全国各地の善男善女の信仰を集めた。天正13年(1585年)根来衆が占拠していたこの寺を秀吉が攻撃、その将堀秀政の兵火により灰燼に帰した。(秀吉は紀州攻めで根来寺も焼き払った)文禄元年(1592年)堀秀政は岸和田城主になり、罪障消滅のため小宇を建立した。下って、寛永2年(1625年)岸和田城主松平源康重公が本堂を改築したが、天明年間(1781~1788年)の大火により、全焼した。文政10年(1827年)岸和田城主岡部美濃守が本堂13間4面及び三重塔を建立、現在に至っている。

またこの三重塔には面白い話がある。天象13年の秀吉の紀州根来衆攻めで消失した三重塔の再建について井原西鶴は「利生」の銭という話を書いている。江戸の名も知らない廻船問屋の若主人初午に参詣し一貫目の利生の銭を(賽銭を利生の銭として)借りて帰ったが13年目に8、120貫(銭1000文を一貫、江戸時代後期には960文をまた、明治になって10銭を、一貫といった)を返納し、三重塔を建立したとある。この塔も天明の大火で消滅、文政10年(1827年)に再建され、現在にいたっている。直木賞作家で天台宗の僧侶でもあった今東光が一時住職を勤められた。正月、節分、初午の三大法要には多くの参詣人でにぎわう。千本餅搗きは、観音出現の時、16童子が千本の木をもって餅を搗いたというのが始まりで、水間の第一行事にかぞえられ、搗き

上がった餅は、厄除け餅として参詣者に配られる。餅搗き行事・各歴史的建物施設の説明には木曜班員が分担務めた。

貝塚寺内町 中世願泉寺の寺内町として成立。その面積規模は南北800㍍、東西550㍍、願泉寺を中心とした環濠城塞都市であった。ガイドボランティアの案内では、貝塚寺内町の産土神感田神社境内に集まり、2班に別れて説明を聞いた。創建は明らかではないが、祭神は天照大御神、須佐之男命、菅原道真。明治5年総社となる。表門は（寺院風）大工、種子島勘左衛門によって建てられたもので、神馬は、宝暦8年（1758年）細工人、岸上左衛門の作。250年の年を経たとは思えない、白馬であった。慶安元年（1648年）の町絵図によれば濠の内側には番所が置かれていたとあるが、現在は、他の寺内町に見られる番所跡、環濠は見られず、僅かにこの感田神社社務所前に疎水があり、それが環濠の極く一部の跡だとガイドの説明であった。

願泉寺・貝塚御坊 貝塚寺内町の中心を成す願泉寺は、天文14年（1545年）無住であった草庵に紀州根来寺からト半斎了珍を迎へ、一向宗の街づくりが始められた。石山本願寺から寺内町と認定され、天正5年（1577年）にはその首領として織田信長と戦い、街は焦土と化したがお寺も街もその後再興なり、天正11年（1583年）から2年の間、石山本願寺から紀州鷺洲の森に隠遁していた顯如上人を迎へて本願寺御堂となつた。江戸時代には寺領となり、ト半斎家の支配が続いた。願泉寺の寺名は、慶長12年（1607年）准如上人（顯如の次男）から授けられた。
境内にある梵鐘は鎌倉時代のもので、貞応3年（1224年）大和国広瀬郡箸尾郷（奈良県北葛城郡）の大福寺の推鐘として造られ、その後室町時代の康正2年（1456年）水間寺に買い取られ、天正13年（1585年）水間寺から海塚（貝塚）御坊が買い取り、現在に至っている。（アンダラインの箇所は坂根氏提供の資料から抜粋）

本堂は国の重要文化財に指定されているが、現在、他の建造物と共に解体修理が行われており完成は、平成22年春頃とのこと。なおこの大寺院の修理には、旧岡田家、酒蔵の再建、復興工事に携わられた、文化財建造物保存技術協会 後藤玉樹氏もスタッフとして携わっておられる。

浄土真宗本願寺に属する尊光寺の本堂を参拝させていただいた。このお寺は真言宗の寺として新井村に開基されたとされている。明応2年（1493年）蓮如に帰依し、本願寺末に改宗、天正16年（1588年）に、貝塚寺内の現在地に移転、現在に至っている。また、明治初年までは、浄土真宗興正寺派に属していたとのこと。境内のかいづかいぶきは天然記念物に指定されており、推定樹齢は400年、太い幹はねじれており、枝ぶりは未だ元気そのもの。

寺内町には国の文化財に登録されている、住宅は10軒もあり、江戸中期の建物。後年拡張された中の町通りと府道堺阪南線を除けば、街路はほぼ当時（慶安元年1648年の町絵地図）のまま現在も使われている、とのこと。並河家、山田家、竹本家、通りの坂の名称に使われている利斎家、吉村家、最も規模広大なのが廻船問屋だった広海家で堂々たる構えであった。



主な活動記録と今後の予定

<<ガイド日程・団体・人数>>

<<実施済み>>

月	日	コース	依頼者	人数
5	13(火)	岡田家	J R・旅行社	5 0
	15(木)	城跡岡田家	大手前大学生	3 6
		三軒寺他	同上	3 5
	16(金)	城跡岡田家	同上	3 6
		三軒寺他	同上	3 6
	24(土)	D コース	HSC 伊丹スワン	1 5
	30(金)	岡田家	さくらんぼ会	3 5
6	3(火)	A コース	武庫之荘文化会	3 0
	17(火)	岡田・石橋	阪神北地区社会教育委員会	5 0
	22(日)	岡田・石橋	高槻・萩谷女性会	1 5
	23(月)	B コース	武庫ネイチャークラブ	3 0
7	5(土)	岡田家	京大俳句を詠む会	2 0
	13(日)	岡田家	加古川・三歩クラブ	4 0
8	22(金)	岡田・石橋	西宮満池谷町歩こう会	1 5
9				
10				

編集後記

暑さ真っ盛り。蝉の鳴き声 に目覚める毎日
に編集作業もにぶりがち、活動活発に原稿も
やや長め、今号も 8 ページに。
わくわく教室に、タイアップ事業、スカイパーク関連、ロマン事業と年末が早くきそう。
わくわく教室には定員の倍以上の希望とか・・・
この暑さ健康に気をつけて乗り切らなければ
.....

夏ばての MG 記

幹事会 : 5/7 6/3 7/1 各第 1 火曜日
定例会 : 5/13 6/10 7/8 各第 2 火曜日
春季研修バス旅行石山寺・水口宿方面 5/13
火曜会通信発行 : 37=5/1 38=8/1
屋外研修 : 水曜班 神戸兵庫津 6/2
木様班 水間寺貝塚方面 7/22
中央公民館 展示 5/13 ~ 5/18
どんぐり座上演
ランドテーブル会場 5/17
文化財愛護少年団入団式会場 5/31
北河原自治会 北河原 C 6/15
千僧アルピス自治会 盆踊り 7/26
ロマン事業等関連講習・説明会 7/8
わくわく教室打合せ会 6/24
スカイパーク 織物作り 7/26
ガイドブック打ち合わせ 5/26 6/16 7/21
分科会定例会 各月既定曜日
8月以降予定
幹事会 : 第 1 火 am 定例会 ; 第 2 火 am
古文書 : 第 3 火 pm スワン H
PC 教室 : 第 2 ・ 4 木 pm ラスタ H
どんぐり座 : 第 3 火 am スワン H
行基会 : 9/22 リータ 10/20 屋外
ガイドブック打ち合わせ 9/22
わくわく打合せ 8/5
わくわく教室 8/20 中央公民館
タイアップ事業講演会 8/23 中央公民館
タイアップ事業散策おどり勾玉作り
9/27 中央公民館
スカイパーク はにわペン作り 8/24
スカイパーク 勾玉作り 9/6
スカイパーク はにわ作り 10/4
どんぐり座 上演 8/22 四つ葉 C
ワンデーウォーク 10/25 アピールプラン
FM いたみ

屋外研修 : 金曜班 10/28